

平成29年度第1回 川崎市社会教育委員会 青少年科学館専門部会 次第

日時 平成29年 8月1日(火) 午後2時～4時

会場 かわさき宙と緑の科学館(川崎市青少年科学館) 自然学習棟 2階 学習室1

1 開会

会議の公開について 次第説明・資料確認

2 館長挨拶

3 (議事1) 平成28年度事業評価について **資料1** **資料2**

(1) 各委員からの評価コメントについて

(2) 総合評価、公開版(案)の作成について

- ・事務局より各事業の各委員による評価コメントについて説明
- ・事務局より公開版(案)の各事業の総合評価値、評価コメントについて説明 (質疑応答)

4 (議事2) 平成29年度事業実施状況について

- ・7月末までの主な実施状況、今後の予定について説明 (質疑応答)

5 その他

(1) 今後のスケジュールについて **資料3**

- ・事業評価のとりまとめ、公表について
- ・今後の専門部会の開催スケジュールについて

(2) その他

6 閉会

【資料】

- ・資料1: 「平成28年度 事業評価表」 (各委員コメント一覧、総合評価、公開版(案))
- ・資料2: 「平成28年度 事業評価表」 (事業実績、自己評価入り)
- ・資料3: 「今後のスケジュール」
- ・その他配布物: 科学館だより、事業・イベントチラシ類
- ・川崎市青少年科学館紀要 第27号

平成29年度第1回 川崎市社会教育委員会議 青少年科学館専門部会摘録

日 時 平成29年8月1日(火) 14:00~16:00

会 場 かわさき宙と緑の科学館(川崎市青少年科学館) 自然学習棟2階 学習室1

出席者(敬称略)

- (1) 委員 (社会教育) 岩切貴乃(副部会長) (公募市民) 渡邊敬三(部会長)、服部公俊
(学識経験者) 山上明、瀬能宏、松島義章、洞口俊博 (教育職員) 滝澤真一
(家庭教育) 眞壁総子

出席委員: 9名

欠席委員: 1名(教育職員) 網屋直昭

- (2) 事務局 五十嵐館長、大泉、川島、弘田、竹下(司会進行)、小鍛治(生田緑地運営共同事業体)、

- (3) 傍聴者 0人

1 開会

事務局より、開会告知、傍聴者受入(定員5名)、記録(録音及び筆記)作成及び会議記録公開について周知

2 館長挨拶

- 平成29年4月に高津市民館から異動した。5月には学校委員に交代があり、小学校は滝澤委員、中学校は網屋委員にお願いすることになった。
- 生田緑地及び緑地内3施設の管理運営・広報業務を横断的に実施する指定管理者制度は、平成29年度に最終5年目を迎えた。現在、平成30年度から5年間の次期指定管理の事業者募集が始まっており、10月には次期指定管理者が明らかになる予定である。
- このたび日本民家園が開園50周年を迎え、4月に記念式典が開催された。今後、平成31年には岡本太郎美術館が開館20周年、そして平成33年には当館が開館50周年を迎える。委員の皆さまには、引き続きご支援をお願いしたい。なお、本日は平成28年度事業評価を中心にご審議をいただき。忌憚のないご意見をいただきたい。

以下、部会長が議事進行

3 議事1 平成28年度事業評価について

部会長

- これより専門部会として事業評価を行う。この結果が社会教育委員会議に報告されるとともに、青少年科学館のホームページで公開されることになる。

(総合評価)

部会長

- 各委員の評価を集計し、ルールに基づきA~Dの総合評価を行っている。資料1を参照。まずこの総合評価について各委員にお諮りする。(異議なし) それでは総合評価は事務局案のとおりとする。

(公開版コメントの整理)

部会長

●事業評価は、A～Dの総合評価値と併せて委員コメントも報告・公開する。各委員のコメント公開用に整理した事務局について部会長が事前に確認したものが、資料1「平成28年度事業評価」である。「1 展示事業」から「6 管理運営」まで全ての事業とその項目について確認し、委員から意見をいただき、公開版として整理したい。

【質疑応答】

(1 展示事業)

●自然展示 評価：B 特に意見なし

●天文展示 評価：A

事務局 乳幼児向けプラネタリウム番組「ベビー&キッズアワー」について、委員より、平成28年度は27年度に比べて投影回数は2.25倍となったものの、参加者の増は前年比2.25倍に届かない状況であり、何らかの対策が必要であるとのコメントをいただいている。

平成27年度は11月まで月1回投影で定員超の場合は追加投影していたが、それ以降は月2回投影に変更している。投影回数は約1.7倍、参加者数も約1.7倍でほぼ同率であり、一定の成果を上げていると思われる、

今回、審査用に事前に委員あてお送りした評価用資料(年報暫定版)がわかりづらく、今後整理したい。

●科学展示 評価：B

委員 ワクワドキドキ玉手箱(科学実験キット)の活用回数が、資料によれば年間で4日8回とのことで少ないように感じるが、実態はどうか。

事務局 ワクワドキドキ玉手箱は、各種科学実験教室、出前教室等に広く活用されているが、「展示」としては「サイエンスショー」の4日8回のみ掲載している。その他の取組みは「2 教育普及」に掲載している。

(2 教育普及事業)

●自然体験 評価：B 特に意見なし

委員 生田緑地観察会について、評価用の資料には観察会の館担当者名が記載されていなかったため、館学芸員も専門家として主体的に関与すべきとコメントした。実態はどうか。

事務局 生田緑地観察会は委託形式で行っており、館学芸員の主体的な関わりはない。

委員 地層・林の観察会は、評価用資料には「授業の一環」と明記されている。学校の理科の授業を科学館が請け負っているのであれば、社会教育施設として適切ではないとコメントした。評価用資料の記載は実態がわかるよう工夫すべきである。実態はどうか。

事務局 実際には館学芸員の専門的な解説のほか、指導力向上のため指導者用資料の作成、教員独自解説の研修など、学校支援・補助を行っている。

委員 学校が教えないことをプラスアルファとして教え、体験させるのが社会教育施設としての科学館の役割であると考え。そうした取組みについて記載すべきである。

委員 「学校支援」は児童生徒への支援、「授業支援」は教員への支援というイメージがある。社会教育施設として、学校教育への「情報提供」という記載も考えられる。検討してほしい。

●天文体験 評価：B 特に意見なし

●科学体験 評価：B

委員 科学サポーター研修会の開催にあたり館職員が専門家として関わっているのか、評価用資料からは読み取れなかったが、実態はどうか。

事務局 事前に講師に館の研修方針や内容の方向性を伝え、協議のうえ実施している。

委員 評価用資料（年報暫定版）に実態をきちんと記載してほしい。なお、年報は、館の取組みについて他館が知ることのできる貴重な資料として、また、事業評価が適切に行える資料として、工夫して作成すべきである。

(3 調査研究及事業)

●自然分野 評価：B 特に意見なし

●天文分野 評価：B

委員 気象観測装置によるデータ収集が天文分野において報告されているが、本来は自然分野で扱うべきではないか。

事務局 これまで天文班の職員が気象観測データの収集を行ってきた経緯があることから、天文分野において実績報告・自己評価を行っているが、ご指摘を踏まえ修正を検討したい。

●科学分野 評価：B

委員 館として科学分野における調査研究をどのように考えているのかが読み取れない。例えば関心を高めるような教材を開発するために調査・データ収集し、その効果を分析するなど、どのように取り組んでいるのか。

事務局 平成24年度に策定された学芸事業10年計画（以下、10年計画）に基づいて年度計画を立案し、実績・自己評価を記載している。科学分野の調査研究成果については、このたび刊行した「紀要」に1本報告を掲載している。今後も成果の公表に努めたい。

部会長 科学実験教室等の参加者の反応、アンケート調査の結果について、事業にどのように活かしているのか。

事務局 様々な科学実験教室においてアンケート調査を実施しており、その後の事業実施に活かしている。今後はデータを体系化して事業実施に活用するとともに、報告としてお示しできるよう整理したい。

(4 収集保存事業)

●自然分野 評価：B 特に意見なし

●天文分野 評価：B 特に意見なし

●科学分野 評価：B

委員 科学分野において活用し保存する資料とは何か。教材として使われるものではなく、博物館資料としてどのように位置付けて収集保存していくのか、整理する必要がある。

事務局 科学分野における資料の定義や収集保存の位置付けや、事業実績・自己評価を明確に示すことは、現状の10年計画のもとでは難しいと考えている。

部会長 外部へ向けた資料収集保管情報というよりは、内部で活用していくための取組みというのが実情ではないか。

事務局 現状はそうだが、外向けにも発信できるよう整理できればと考えている。

事務局 10年計画も5年以上経過している。事業実施の現状を踏まえ、必要に応じて見直すことも検討したい。

(5 ネットワーク事業)

- (1)展示・企画 評価：B 特に意見なし
- (2)調査研究・収集保存 評価：B 特に意見なし
- (3)学習支援 評価：A 特に意見なし
- (4)地域振興 評価：B
- (5)生田緑地内 評価：B

委員 生田緑地や周辺のイベントへの参加、緑地他館との連携が図られている。また、かながわサイエンスパークで開催される「かわさきサイエンスチャレンジ」に積極的に参加していることも評価できるが、この生田緑地の科学館により多くの人々に来館してもらうため、科学館主体で独自に年1回でも、規模の大きなイベントを開催してもよいと思われる。

(6 管理運営)

- (1)管理業務の実施状況 評価：B

委員 専門性の高い学芸員の配置がパーマネントではない。資料収集、保管、調査研究等、長期的な計画・取組みに支障があると思われるが、館長の考えを伺いたい。

館長 平成26年度に任期付として自然、天文の各分野に学芸員が採用され、大きな成果を上げている。これまで学芸員が配置されず、学術的な資料収集、保管、保存調査研究が行われていなかった自然分野では、初めて学芸員が配置されて着実に成果が上がっていると感じている。日本民家園にも任期付の学芸員がおり、当館も含めて平成29年度で4年間の任期満了となる。館として、常勤の学芸員を配置したいと考えている。

部会長 専門部会として学芸員のパーマネントな配置はぜひお願いしたい。財政的措置も含め、専門部会の意見を活用してほしい。

- (2)組織体制 評価：B 特に意見なし
- (3)危機管理 評価：B

委員 委員からのコメント「『広域避難場所内の施設としての災害対策の実施』に対する平成28年度実績・自己評価の記載内容が前年度と同じではおかしい」という点について。修正モレがあったので、実績・自己評価の記載を修正した(資料2 16ページ)。

委員 事務局による上記の修正箇所について、「展示・収蔵資料の危機管理」については、「広域避難場所」の項目ではなく、他の項目に計画として追加してはどうか。

事務局 当館では今年度以降、検討を始めるところであり、この件は10年計画には明示されていないので、平成29年度計画に追加する方向で検討したい。実際に当館でも今年度から検討を始める予定である。

委員 展示・収蔵資料の危機管理は各館でも進んでいない。県博物館協会でも昨年度に研修会が行われ、県立生命の星・地球博物館でも、検討が始まったばかりである。事業計画に載せれば先進的な取り組みとなる。また、東日本大震災等の教訓として他館との相互レスキュー体制の構築も今後の検討課題である。

- (4)施設の利活用（広報計画） 評価：B 特に意見なし
- (4)施設の利活用（科学館の魅力を高めるサービス展開） 評価：B 特に意見なし
- (4)施設の利活用（多様な利用者への配慮） 評価：B 特に意見なし
- (5)進行管理 評価：B 特に意見なし

(評価のまとめ)

部会長 「総合評価」については、冒頭、確認のうえ承認いただいた。「コメント」については、委員のご意見を踏まえて必要な部分は修正し、平成28年度事業評価の公開用最終案を事務局で取りまとめ、委員あて送付すること。各委員には確認をお願いしたい。

4 議事2 平成29年度事業実施状況について

部会長 平成29年度の現在までの事業実施状況について、事務局より説明されたい。

事務局 平成29年度も4ヶ月が経過した。上半期の事業実施報告は、次回の第2回専門部会で行う予定である。本日は、当館のパンフレット（科学館だより等）により、主な事業、拡充事業などについて説明させていただく。

- 「七夕体験」 7月1日（土）（緑地内他館連携事業）
当日2回のプラネタリウム子ども向け投影「七夕ものがたり」観覧者にオリジナル短冊を配布、短冊を民家園に持っていくとミニ笹をプレゼント。民家園内でも七夕に関する展示、イベントを同時開催。
- 「オーロラ全天上映&トークライブ」 7月14（金）、15日（土）（プラネタリウム特別投影）
オーロラメッセンジャー中垣哲也氏によるオーロラ上映とトーク。昨年に続き開催し、好評につきチケットは早々に完売。
- 「プラネタリウム一般投影の回数変更」 6月より
土日祝日の一般投影4回（うち子ども向け1回）を、6月から5回に増やした。子ども向けを2回に増やすことにより、観覧者の多い土日祝日において、子ども向けと一般投影との住み分け推進され、効果を上げている。
- 「バックヤードツアー」 6月8日（土）、8月26日（土）
平成29年度新規事業、普段は入ることのできない収蔵庫を見学し、標本類を見てもらう等、資料の収集保管の現場に触れることで博物館の役割を理解してもらう企画。
- 「プラネタリウム子ども向け番組」 7月より
新たに制作した子ども向け番組「ドーナツ星雲をつくろう!？」の投影を開始。
- 「かわさきサイエンスチャレンジ」 8月5日（土）、6日（日）
かながわサイエンスパーク（KSP）で開催される子ども向け科学イベント、当館では13のブースを出し、当館でも活動する団体や大学とも連携して参加（チラシで説明）。
- 「サマーミュージアム」 8月20日（日）（指定管理者主催事業）
生田緑地全体で行うイベントに合わせ、当館では「夏の昆虫50選!」、「実験工房スペシャル」を開催。
- 「夏休み生田緑地スタンプラリー」 7月15（日）～9月3日（日）（施設・地域連携）
青少年科学館、日本民家園、岡本太郎美術館のほか、藤子・F・不二雄ミュージアム、登戸駅

前行政サービスコーナーの5か所で行うスタンプラリー。

委員 バックヤードツアーの参加状況はどうか。

事務局 6月の実施では、定員10名に対し5名の参加だった。大人が多かった。

委員 バックヤードツアーは一般的に人気が高いが、広報は十分だったのか。

事務局 4月末の「科学館だより5,6月号」に掲載するとともに、館ホームページでも告知しており、通常の広報活動である。

委員 博物館を裏側は一般には知られていない面もあり、広報に工夫が必要である。一方、当館も、自分の勤務する神奈川県立生命の星・地球博物館も同じだが、収蔵庫は一般の見学を想定した見せる構造ではない。収蔵資料へのダメージ、使用薬品の見学者への影響も懸念されることから、どうしても定員・回数を限定せざるを得ない。一般向けのツアーの他に、自治体関係者に博物館の役割・重要性を理解してもらうための「視察」の開催も必要と思われる。

事務局 今回は一般を対象としたが、委員のご指摘のとおり、庁内関係者向けの公開も重要と考えており、昨年度は本市の環境局による生物多様性等の会議・交流会において、2,3回だが収蔵庫の視察を行っている。収蔵資料への影響を考えると、バックヤードツアーの定員増や開催の常態化は好ましくないと考える。

5 その他 (1) 今後のスケジュールについて

部会長 平成29年度事業評価等、今後のスケジュールについて事務局より説明されたい。

●事業評価時期の見直しについて

事務局 今年3月開催の平成28年度第4回専門部会でも説明しているが、これまで10,11月頃に前年度の事業評価を確定し公開していたが、事業評価の内容を当該年度の事業展開や次年度の予算要求に反映できるよう、評価時期を前倒す必要があると考えている。平成29年度は年度末(30年3月末)までに大筋の評価を取りまとめでいただく方向で検討している。

●今後のスケジュールについて

事務局 事業評価時期の見直しを踏まえた平成29年度の今後のスケジュールは以下のとおり。

・平成28年度事業評価の確定・公表

本日の審議結果を踏まえ事務局で公開版を作成し、メール等により各委員にご確認いただき内容確定のうえ、8月末を目途に当館ホームページにて公開する予定。

・第2回専門部会

平成29年度事業中間報告、館内施設・事業視察を10月下旬から11月上旬に予定。

・第3回専門部会

日を決めた全員出席開催ではなく、11月中旬から12月中旬を館内施設・事業視察期間とし、各委員希望の視察内容・日時を個別に調整のうえ決定し、学芸員が案内・解説する形式で開催。

・第4回専門部会

上記の理由により例年より事業評価次期を前倒す。平成29年度の2月頃までの事業実績・自己評価を事務局で作成して委員に送付、委員にA～Dの評価及びコメントをいただき、平成30年3月中旬から下旬に実施予定の第4回部会において、本日と同様の審議をいただき、平成29年度事業評価の公開版(案)を大筋で取りまとめる。

なお、3月分を含む最終的な平成29年度事業実績・自己評価を、平成30年4月早々に追加送付し、現任委員の委嘱任期满了となる4月末までに公開版案の内容確認・修正を行う。

委員 平成29年度評価は全ての事業が終了していない段階で行うことになる。昨年も今回も指摘しているが、客観的評価が可能なわかりやすい資料を用意してほしい。前年度との比較データも同様。

事務局 評価時間の確保も必要であり、年度末どの時点までの資料を提供し評価をいただくか、検討するとともに、ご意見を踏まえて評価参考資料を作成したい。

部会長 もともと協議会は、館の運営の指導・助言を行う「スタッフ」としての役割を担っていたが、博物館評価が入り、「ライン」として評価作業を行うようになってきている。委員の負担も増えているが、作業の効率化、わかりやすい資料をお願いしたい。

副部会長 10年計画に基づき年度評価計画が策定され、実績・自己評価を行っているが、審査する側としては、10年計画から自己評価まで一連でわかる評価資料がほしい。

事務局 本日配布している評価資料も、事務局の自己評価と公表用事業評価が別の資料となり、わかりづらい。別途、10年計画資料を用意するなど、わかりやすくするよう検討したい。

(2)「紀要」最新号の配布について

事務局 青少年科学館紀要の最新号、第27号を配布している。先ほど審議いただいた科学分野の調査研究について、報告を掲載している。その他の内容も含めて確認をお願いしたい。

6 閉会

部会長より閉会告知